

とっとり若者Uターン・定住戦略本部  
第1回 ワーキンググループ

令和6年7月3日(水)  
13:30~15:30



# 戦略本部会議(5/20)の振り返り

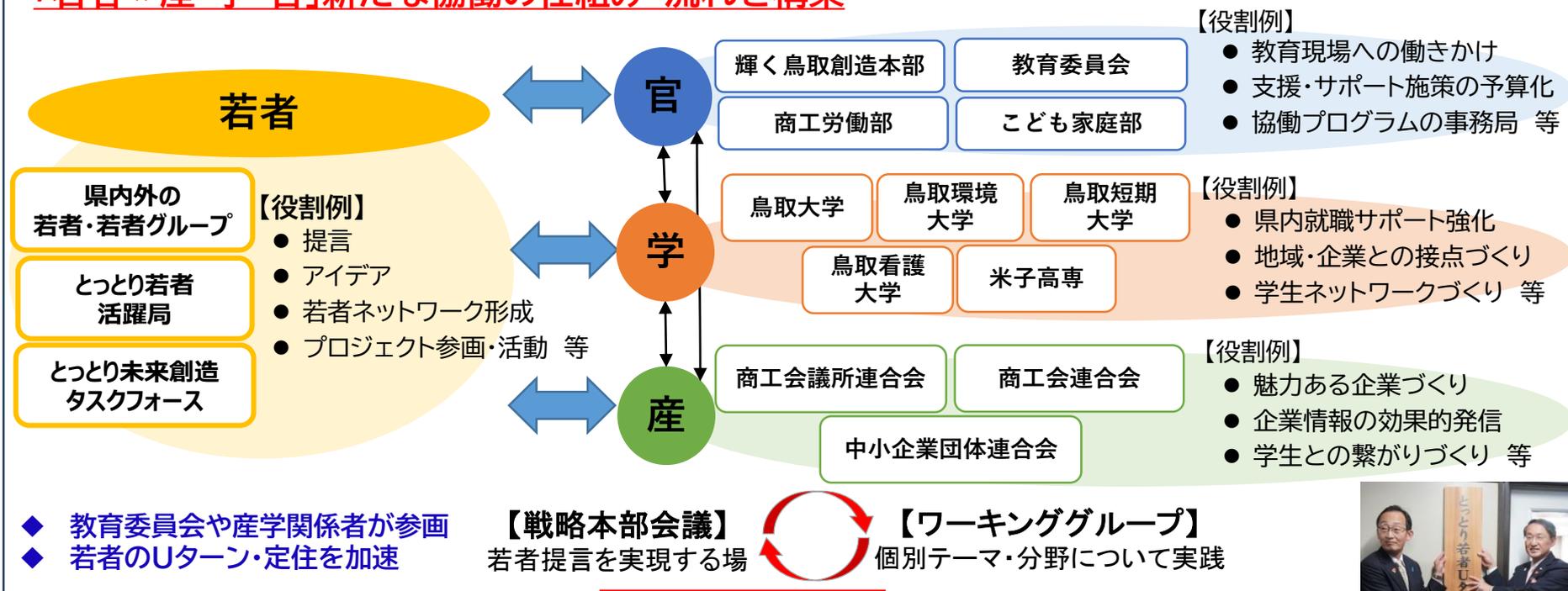
---

# 若者視点・提案で生まれた「若者Uターン・定住戦略本部」

「若者Uターン・定住戦略本部」を設置し、産学官・若者は実働部隊として参画  
 ⇒産学官で行う既予算化事業の実行方法(手法)を若者目線で再検討  
 ⇒実行する施策・プログラムにおいて、若者・産学官が提供するリソースを明確化し、  
 “協働”により若者Uターン・定住を図る新たなサイクル(文化)を形成

## とっとり若者Uターン・定住戦略本部

「若者⇄産・学・官」新たな協働の仕組み・流れを構築



“つながる”をキーワードに産学官・若者が協働し、  
 若者Uターン・定住に繋がる実効性あるアクションを実行

# 参加メンバーの主なご発言

---

## 《高校卒業までの学生へのアクション》

- 幼い頃から学校や地域で、多くの人との出会いが多発的に起こることで、鳥取で育ってよかったとか、子供たちの自信や誇りに繋がる。
- 子供に豊かな教育が提供できるということを考えれば、移住者は確実に増える。初等教育を拡充させるのが肝。

## 《県内大学生等へのアクション》

- 就活交流会などの行政発信の情報でも、友人など同じ世代・目線の人からの情報なら受け入れやすい。学生間のネットワークの活用が効果的。
- 移住定住でも関係人口でも、結果的には、鳥取を面白がってくれる仲間をいかに増やすかが大事。

## 《県外への進学・就職した若者へのアクション》

- バーチャルとつとりのようなネット上でゆるやかな繋がりができれば、リアルなイベントにも行ってみようという人もいるのではないか
- 若者のUターンには、新産業など、鳥取の産業の魅力を知ることが重要。

# 現状分析まとめ

## 人口減少への対策には

- 自然減対策（子育て支援の充実等）を図りながら、転出超過（社会減）の主な要因となっている若者世代に対してUターン・定住を戦略的に進めていくべきではないか
- 
- 若者転出超過に対しては、高校卒業まで県内に在学する学生と、大学等進学以降の若者の選択に影響を与える施策（アクション）の強化が必要ではないか
- 

### 《高校卒業までの学生へのアクション》

- ① 将来の県内就職を促すため、小・中・高校生の地域との“つながり”や企業との関わりをどう豊かにするか

### 《大学進学以降の若者へのアクション》

- ② 県内の大学等卒業時の県内就職を促すため、学生時代の地域・企業との“つながり”をどう豊かにするか
- ③ 県外進学した県出身者や県外で就職した若者のUターンを促すため、地元地域・県内企業との“つながり”をどのように作っていくか

## ワーキンググループ(WG)の進め方(案)

---

# ワーキンググループ(WG)の進め方(案)

---

## ◆ 7月3日 第1回 ワーキンググループ

- ・WGの進め方、プロジェクトの方向性に関する意見交換  
⇒ プロジェクトの方向性付け

## ◆ 7月下旬 第2回 ワーキンググループ

- ・第1回WGを踏まえた、プロジェクトに対する具体のアクション等に関する意見交換  
⇒ プロジェクトのキックオフ

## ※ 以降、プロジェクトごとにアクション実行

## ◆ 秋頃 第3回 ワーキンググループ(中間報告)

(秋～冬頃 第2回 とっとり若者Uターン・定住戦略本部会議)

## プロジェクトの方向性(案)

---

# プロジェクトの方向性(案)

---

- ① 県内高校生等プロジェクト
- ② 県内大学生等プロジェクト
- ③ 県外大学生等プロジェクト
- ④ 県外若手社会人等プロジェクト

# 「①県内高校生等プロジェクト」に関する主な取組

## 地域との繋がりづくり

## 企業との接点づくり

知る

- ・授業でのふるさとキャリア教育
- ・ふるさとキャリア教育フェスティバル
- ・「とりふる」の登録促進【高・保】
- ・中学生トークプログラム【中】

- ・県内企業情報の提供(とりふる、企業紹介冊子(電子版)、ポータルサイトの活用等)
- ・求人事業所説明会【高】
- ・学校キャラバン隊【小】
- ・「とりふる」の登録促進【高・保】

体験

- ・探究学習・地域課題研究発表【高】

- ・親子でおしごと体験ツアー【小】
- ・こども未来大学【小】
- ・インターンシッププログラム【高】
- ・経営者・若手社員等による講座【高】
- ・高校生と企業若手との交流会等【高】
- ・教員等の県内企業見学会

実践

- ・地域の魅力紹介CMコンテスト
- ・とっとり夢プロジェクト【高】
- ・とっとり若者活躍局【高】
- ・ミラ・クル・とっとり運動推進補助金

- ・ビジネスプランコンテスト【高】

## ■ 主な課題・問題意識

- 地域との繋がりをもっと増やす必要があるのではないか。
- ふるさとキャリア教育に取り組んでいるところだが、新たに、将来的な鳥取へのUターンや県内定着に資する「とっとり暮らしの良さ」や、「鳥取県や県内企業の魅力」を伝える取組など、**若者の共感を得る視点の取組の充実が必要ではないか。**
- 地域全体で、いつでも(いつか)戻っておいで、という機運醸成が不十分ではないか。

(「県内高校生等プロジェクト」の方向性)

### ◆ 将来的なUターンという視点の取組や機運醸成が必要ではないか。

#### <6月補正予算事業>

- “若者と創る”若者の「共感」を生むデジタル教材の作成【予算額:4,000千円】

鳥取で育つ子どもたちの郷土愛を醸成するため、主に小中高校生をターゲットに、ふるさとの素晴らしさを再認識し“共感”できるコンテンツを詰め込んだ、新たな教材(デジタルガイド)を若者と協働で制作。  
作成した教材はR7~学校現場で活用。

- “若者が実践”高校生地域活動等推進事業【予算額:3,000千円】

高校生が、大学生や地域住民・団体・企業等が実施する地域活動に参加し、地域住民等との活動・交流を通じて地域への理解・関係性を深める、特徴ある取組を支援する。

# 「②県内大学生等プロジェクト」に関する主な取組

## 地域との繋がりづくり

## 企業との繋がりづくり

知る

- ・「とりふる」の登録促進
- ・地域課題探求型の授業(基礎)(地方創生入門【鳥大】、鳥取学【環大】)

- ・卒業生による進路講演会【看大】
- ・とっとり就職フェア・企業ガイダンス等
- ・「地域学」の授業【米子高専】
- ・企業見学・進路研究セミナー【米子高専】
- ・とっとり就活ナビによる情報発信
- ・家族向け就活応援セミナー・交流会
- ・「とりふる」の登録促進

体験

- ・ラジオを活用した情報発信
- ・地域課題探求型の授業
- ・鳥取グリーンベンチャー講座【環大】

- ・地元企業を「知る」「見る」「体験する」【鳥大】
- ・就活応援交流会
- ・企業見学会・バスツアー
- ・SDGs共創プロジェクト【環大】
- ・インターンシッププログラム
- ・家族向け企業見学ツアー

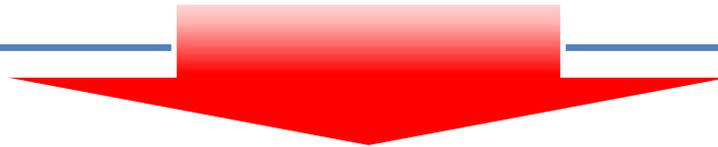
実践

- ・未来予想図の制作
- ・学生CoREコミュニケーター制度【鳥大】
- ・学生コーディネーター制度【環大】
- ・とっとり若者活躍局
- ・ミラ・クル・とっとり運動推進補助金

- ・とっとり産業総合展示(産業未来フェス)
- ・共創型企業誘致の推進
- ・未来人材育成奨学金・返還支援
- ・病院・実習先との関係強化【看大】
- ・職場見学会【鳥短】

## ■ 主な課題・問題意識

- 県内高等教育機関において、鳥取大学、公立鳥取環境大学では入学者の約8割が県外出身者のため、入学後早い段階で、まずは鳥取のことを「知る」機会を充実し、鳥取(地域・企業等)との濃い繋がりづくりができれば定着に繋がるのではないか。
- インターンシッププログラムへの参加者の県内定着率は約7割と高率だが、近年、参加者自体が減少しているため、若者が参加しやすいプログラム開発等の見直しが必要ではないか。
- 理工系大学生の受け皿となる就職先や新産業分野、起業などの取組の強化が必要ではないか。
- 行政発信の情報は、学生にとって堅く感じられ、情報が効果的に届いていないのではないか。



(「県内大学生等プロジェクト」の方向性)

◆ **県内定着に向けた地域・企業との濃い繋がりづくりが必要ではないか。**

<6月補正予算事業>

- “若者が実践”「暮らすインターンシップ」開発・モニタリング事業【予算額:1,000千円】

卒業後も鳥取に住み続けたい理由ともなる、「地域への愛着・共感、人々との繋がり」を体験しながら県内企業の魅力を知ることができる「暮らすインターンシップ」の開発・モニタリングを支援する。

# 「③県外大学生等プロジェクト」に関する主な取組

## 地域との繋がりづくり

## 企業との繋がりづくり

知る

- ・とっとり来LOVEとっとりメンバーシップ
  - ・「とりふる」による情報発信・繋がり構築
  - ・「バーチャルとっとり」による繋がり構築
  - ・県人会・同窓会の開催
  - ・ウェルカニ関係人口窓口
- ・「とりふる」による情報発信・繋がり構築
  - ・「バーチャルとっとり」による繋がり構築
  - ・とっとり就活ナビによる情報発信
  - ・首都圏学生就職セミナー
  - ・就職協定大学等での就活カフェ

体験

- ・地域活動応援事業費補助(県内)
- ・とっとりworking交流会
  - ・とっとりWorkWork飛行機・バスツアー
  - ・インターンシッププログラム
  - ・とっとり産業総合展示(産業未来フェス)
  - ・共創型企业誘致の推進

実践

- ・地域おこし協力隊制度
- ・採用試験等受験学生への交通費支援
  - ・ // 航空便利用支援
  - ・未来人材育成奨学金・返還支援

## ■ 主な課題・問題意識

- 高校卒業以降、県外大学生等へ鳥取発信の情報を届けるのが難しい。
- 「とりふる」(とっとり)の最新情報(企業・移住・イベント情報等)が満載「full(ふる)」な県公式アプリは利用状況の把握ができておらず、効果検証や見直しが必要ではないか。
- Uターンを希望する若者は一定数いるものの、県人会・同窓会組織や会合に、若者が参加していないのが現状であり、本県出身者の集まる学生寮や、若手交流団体等と連携して、有機的に繋がりが合うネットワークの構築ができると、Uターン促進に効果的ではないか。
- **【再掲】**理工系大学生の受け皿となる就職先や新産業分野、起業などの取組の強化が必要ではないか。
- 他県では活用の多い、「地域おこし協力隊」制度の活用が考えられないか。



(「県外大学生等プロジェクト」の方向性)

### ◆ 鳥取と繋がり続けるコミュニティ形成の強化が必要ではないか。

<6月補正予算事業>

- “若者と繋ぐ”都市部でのとっとりコミュニティの形成【予算額:10,000千円】

都市部の本県出身若者コミュニティと連携・協働し、都市部でのリアルイベントや、インターネットやSNSなど多様なツールを活用した情報発信+交流を通じて、若者と鳥取県(ひと・地域・企業等)が繋がり続ける仕組みを構築する。

# 「④県外若手社会人等プロジェクト」に関する主な取組

## 地域との繋がりづくり

## 企業との繋がりづくり

知る

- ・とっとり来LOVEとっとりメンバーシップ
- ・「とりふる」による情報発信・繋がり構築
- ・「バーチャルとっとり」による繋がり構築
- ・県人会・同窓会の開催
- ・ウェルカニ関係人口窓口

体験

- ・ファミリーワーケーションの実施
- ・地域活動応援事業費補助(県内)

- ・とっとり暮らしワーキングホリデー
- ・副業・兼業プロジェクト「鳥取県で週1副社長」
- ・とっとり産業総合展示(産業未来フェス)
- ・共創型企业誘致の推進

実践

- ・地域おこし協力隊制度

- ・採用面接、企業見学時の交通費・宿泊費支援
- ・ // 航空便利用支援
- ・未来人材育成奨学金・返還支援
- ・事業承継マッチングサポート「relay」

## ■ 主な課題・問題意識

- 県外若手社会人は、高校・大学卒業以降、時間が経過してしまっていることから、鳥取発信の情報を届けるのが大変難しい。
- 【再掲】「とりふる」(とっとり)の最新情報(企業・移住・イベント情報等)が満載「full(ふる)」な県公式アプリ)は利用状況の把握ができておらず、効果検証や見直しが必要ではないか。
- 【再掲】Uターンを希望する若者は一定数いるものの、県人会・同窓会組織や会合に、若者が参加していないのが現状であり、本県出身者の集まる学生寮や、若手交流団体等と連携して、有機的に繋がり合うネットワークの構築ができると、Uターン促進に効果的ではないか。
- 現在の都市部でのキャリアそのままを活かせる仕事は少なく、給料が下がることへの不安・懸念等を和らげることが、Uターンに繋がられるのではないか。
- 子どもの進学前など、Uターンを促す機会を捉えることができるのではないか。
- 「鳥取県で週1副社長」(副業・兼業プロジェクト)のようなビジネス人材の活用施策が移住に発展させることができないか。
- 【再掲】他県では活用の多い、「地域おこし協力隊」制度の活用が考えられないか。



(「県外若手社会人等プロジェクト」の方向性)

◆ **県外若者が「帰りたい」を叶える体制・環境づくりが必要ではないか。**

# プロジェクトの方向性(案) [まとめ]

## <全体目的・コンセプト>

「**繋がり**」をキーワードに、若者・産学官の「**共創**」により、若者の「**共感**」を得るアクションが様々な主体・場面で沸き起こる仕掛けを構築し、若者のUターンと定着を継続的なものとする。

### ① 県内高校生等プロジェクト

⇒ 将来的なUターンという視点の取組や機運醸成

### ② 県内大学生等プロジェクト

⇒ 県内定着に向けた地域・企業との濃い繋がりづくり

### ③ 県外大学生等プロジェクト

⇒ 鳥取と繋がり続けるコミュニティの形成・発展

### ④ 県外若手社会人等プロジェクト

⇒ 県外若者が「帰りたい」を叶える体制・環境づくり

## 第2回WG(7月下旬予定)の進め方(案)

- ◆ 第1回WGでの問題意識等を踏まえ、プロジェクトごとに以下のワークを進め、今後のアクションに繋げていく。

＜議論等の項目＞ ★事前準備・検討いただきたい項目

・行うべき具体のアクション

※ いずれのプロジェクトに参画するかは、メンバーの意向確認・調整の上、決定します。

	プロジェクト	若者	産学官
1	【県内高校生等プロジェクト】 将来的なUターンという視点の取組や機運醸成		教育委員会 商工団体(青年部等)
2	【県内大学生等プロジェクト】 県内定着に向けた地域・企業との濃い繋がりづくり		子ども家庭部 商工労働部(雇用) 商工団体(採用) 大学等(採用・地域)
3	【県外大学生等プロジェクト】 鳥取と繋がり続けるコミュニティの形成・発展		輝く鳥取創造本部 県外本部 ふるさと鳥取県定住機構
4	【県外若手社会人等プロジェクト】 県外若者が「帰りたい」を叶える体制・環境づくり		輝く鳥取創造本部 商工労働部(産業・雇用) 商工団体(産業) ふるさと鳥取県定住機構